日本の建築用大理石石材と産地の現状

Building stone marbles in Japan

乾 睦子*・北原 翔**

Mutsuko Inui* and Sho Kitahara**

2008 年 10 月 8 日受付.

2008 年 11 月 12 日受理.

* 国士舘大学理工学部

School of Science and Engineering, Kokushikan University

** 株式会社タイセイ・ハウジー

Taisei Housy Co., Ltd.

Corresponding author; M. Inui, inui@kokushikan.ac.jp

日本の大理石が初めて建築材料として使われたのは明治期の洋館の内装とされ、国内に技術が導入されたのは 1900 年前後である。とくに国会議事堂（1936 竣工）建設にあたり全国的に大理石資源が採されたことが産業の隆盛を促した（全国石材工業会, 1965）。その後、資源量・採算性が失われて採掘量は激減し、この国土が生んできた大理石材の記憶は風化しつつある。地域性が見直される今、著者らは各地の風土の構成要素として石材も忘れられてはならないと考え、建築物に用いられた国産大理石の保存状況や産地の調査を進めており、ここに一部を紹介する。産地特定の多くを工藤ほか（1999）に負う。写真は提供元が特記されたものを除き著者が撮影した。大理石産地はすなわち工業材料としての石灰石産地であり、石材産業の歴史は、自然保護と経済との両立を模索した社会的事例としても大変興味深い。国産石材産業に関する正確な知識を継承していく意義は大きい。

凡例

主な外見上の特徴をなす模様

- ◆ 模様が薄い、均質
- ▲ 縞や脈
- 角礫状
- 化石

産地の現状

- ◇ 現在も産業的には採掘されている
- ◇ 石材に関連する観光資源等がある（鍾乳洞、建物、置物）
- ◇ 石材産出に関する情報がある（含展示、記念碑、談話）
- ◆ 石材産出に関する情報が確認できない

第 1 図. 日本の主な大理石産地. 現在までに聞き取り調査（主に電話）を一度以上実施できた産地につき、石材の外観的特徴と産地の現状を示した。白抜き文字の石材は写真 A～H 参照。大規模産地では鉱業資源として採掘が続けられているが、建材としての産出はほとんどなく、あるとすれば歴史的建築物の補修目的（以前と同じ石材で補修するため）が多い。

文 献

工藤 晃・大森昌衛・牛来正夫・中井 均, 1999, 新版 議事堂の石, 新日本出版社, 158p.
全国石材工業会, 1965, 大理石・テラゾ五十年の歩み, 全国石材工業会, 135p.

第2図 東北日本産の建築石材。A) 紫雲（国会議事堂），岩手県大槌町産。複雑な青緑色の文様が特徴の結晶質石灰角礫岩。B) 水戸寒水石（階段）・加茂更紗（側壁）（国会議事堂），水戸寒水石は茨城県常陸太田市産，別名「茨城白」。江戸時代から採掘されていたと言われる，淡灰色の模様が入った白大理石。灰色の角礫状パターンが特徴の加茂更紗は徳島県阿南市産。C) 青梅石（国会議事堂），東京都日の出町産。赤褐色～暗灰色の縞模様に，脈や割れ目が多方向に入る複雑な外観。正確な採掘地点は分かっていない。D) オニックス・マーブル（国会議事堂），富山県黒部市産。新第三紀の沈澱性石灰岩が採掘されていたが，岩体が非常に小さく今は工業用にも採掘されていない。

第3図 西南日本産の建築石材。E) 黒柿（国会議事堂），岡山県新見市産。阿哲台の一角から採掘されたもの。F) 白鷹（腰壁）（東京都庭園美術館），山口県美祢市産。美祢産の代表的な灰色大理石のひとつであった。秋吉台からはこの他にも粗粒の白大理石である「霞」，赤や黄の網目状の脈が発達した「小桜」，腕足類の化石が密集する「鶉」など，色もパターンも様々な石材が採られた。現在でも稀に建材として出荷される。G) 長州オニックス（国会議事堂）《写真提供：参議院事務局》，山口県美祢市産。鍾乳石を利用した石材で，主に工芸品に用いられた。H) 琉球トラバーチン（国会議事堂），沖縄県瀬底島・宮古島産。更新統上部の隆起サンゴ礁。化石が多く含まれ，黄褐色で空洞が多い。国内の石灰岩の中では最も量が採れ，大面積に施工することができたため，国会議事堂の中央広間の壁に採用された。